

国語科学習指導案

1. 単元名と目標

1年 単元名『本のせかいをたのしもう』 教材名『うみへの ながい たび』

単元の目標：やさしい読み物に興味を持って読む。(12時間配当)

教材の目標：場面の様子を想像し、楽しみながらお話を読む。(6時間配当)

2年 単元名『二本のせかいを楽しもう』 教材名『かさこじぞう』

単元の目標：語り口や様子を表す言葉などの特色に気づき、楽しく読み味わうとともに、自分の好きな本を絵にかいて紹介する。(15時間配当)

教材の目標：民話風の語り口に気づき、楽しく読み味わう。(9時間配当)

2. 教材について

1年

『うみへの ながい たび』は、白くまの親子の海までの長い旅をえがいた文章である。白くまの兄弟の成長と、それを見守る母ぐまの様子がわかりやすく書かれている。動物に興味を持つ1年生にとって、親しみやすい物語といえる。また、白くまの生き生きとした表情のある写真が、子供たちの興味をひくとともに、内容を読み取ったり、場面の様子や白くまの気持ちを想像したりすることを助けてくれる。さらに、お話に出てくる白くまに手紙を書いたりすることで、子供たち自身が白くまの気持ちに寄り添い、お話の中に入りこむことができると考える。

仮説1にかかわって

- ・場面の様子、白くまの様子を想像しやすくするために、写真とその様子を表す文章を対応させながら読み進めることで、文章の読み方を知り、創造力、思考力が養われると考える。

仮説2にかかわって

- ・適切な言語感覚を養うため、地の文から語や文を正しく書き出したり、自分の考えや思いを端的に書くことができるようにする。
- ・発表の時は語尾をはっきり最後まで言うようにする。

2年

『かさこじぞう』は、『「お話びじゅつかん」を作ろう』で読書の関心のジャンルが広がった2年生に対して、さらに「民話」の世界に出会わせ、その面白さに気づか

せる教材である。貧しいながらもほのぼのとしたじいさまとばあさまのやりとり、民話独特の語り口を音読をとおして味わえるようにしたい。

これらの学習をとおして、読書の楽しさや本の世界の広さに気づき、本を自分から手に取って、より読書活動に親しむことが予想され、豊かな読書生活につながると考える。

仮説1にかかわって

- ・細分化された課題を解き進めることによって、文章を正しく把握することができると思う。また、答の根拠となる語や文を地の文から見つけ出し、自分の考えを話すことで確かな思考力を養うことができると思う。

仮説2にかかわって

- ・自学自習の態度を養うために、早く課題が終わったときには、漢字練習や音読練習など自発的に行えるようにする。
- ・声の大きさ、聞き方、話し方など場に応じた対応ができるようにする。

3. 児童の実態

(略)

4. 単元全体の指導計画

(1年生)18時間扱い(『海へのながいたび』は6時間)

時	目標と評価規準
12	<p>『「おはなしどうぶつえん」をつくろう』</p> <p>○動物の出てくる本を読んで、紹介する・</p> <ul style="list-style-type: none"> ・易しい読み物に興味関心を持ち、読むこと。 ・相手や目標を考えながらカードを書くこと。 <p>関：おもしろかった本を進んで紹介しようとしているか。 友だちが紹介した本を、積極的に読もうとしているか。</p> <p>書：目的を考えながら、カードを書いているか。</p> <p>読：動物の出てくる本を新たに選んで紹介しようとしているか。</p> <p>言：文末に常体と敬体があることに気づくことができる。</p>
6	<p>『うみへのながいたび』</p> <p>○場面の様子を想像し、楽しみながらお話を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・易しい読み物に興味を持ち、読むこと。 ・場面の様子を想像しながら読むこと。 ・事柄の順序を考えながら語と語、文と文の続き方に注意して書くこと。 <p>関：写真と文章を結びつけ、楽しんでお話を読もうとしているか。</p> <p>書：おもしろいと思ったことを見つけて、自分の言葉で書けるか。</p> <p>読：読み取った内容をもとに、想像しながら音読しているか。</p>

(2年生)24時間扱い

時	目標と評価規準
15	『「お話びじゅつかん」を作ろう』 ○好きな本の中から場面を想像して絵に表し，易しい読み物をすすんで読もうとする意欲を高める。 ・易しい読み物に興味を持ち，読むこと。 ・書こうとする題材に必要な事柄を集めること。 関：絵本など，いろいろな読み物に興味を持ち，進んで紹介しようとしているか。 (話：紹介された絵について，感想や質問を伝えることができるか。) 書：場面にあった言葉で表現しているか。 (読：友だちが紹介するやさしい読み物に興味を持ち，読むことができるか。) 言：文の中における主語と述語を正しく照応させて読んでいるか。
9	『かさこじぞう』 ○民話風の語り口に気づき，楽しく読むことができる。 ・易しい読み物に興味を持ち，読むこと。 ・語や文としてのまとまりの内容，響きなどについて考えながら声に出して読むことができる。 ・相手や目的を考えながら声に出して読むことができる。 ・相手や目的を考えながら書くこと。 関：昔話に関心を持ち，すすんで読もうとしているか。 書：挿絵や会話文をもとに，地の文を書いているか。 読：登場人物の様子や気持ちを読み取ることができるか。 登場人物の様子や気持ちが表れるように工夫して音読することができるか。 言：同じ絵のくり返しから，言葉のリズム感を感じ取ることができるか。

5. 本時の目標

1年生 4. 5の場面 (P. 34・35) を読み，白くまの兄弟に対する母ぐまの気持ちを，文や写真を手がかりに読み取る。

2年生 4の場面を読み，じいさまを迎えるばあさまの様子やもちつきのまねごとをする二人の様子を読み取り，音読を工夫する。

6. 本時の活動(1年生 16/18 2年生 20/24) ☆～教師の関わり

段階	1年生の活動・評価規準	わたり	2年生の活動・評価規準	段階
つかむ	<ul style="list-style-type: none"> ・新出漢字のスキル練習 (5分) (言) ・4. 5の場面を音読 (個人ーリー) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 白くまになったつもりで、きもちをかんがえよう。 </div>		<ul style="list-style-type: none"> ・新出漢字のスキル練習 (5分) (言) ・4の場面の音読練習 問題：①「…今かえった。」はどちらかというと元気そうに読むか、悲しそうに読むか。 ②家に帰ったじいさまは、寒かったか温かかったか。 ③ばあさまは、かさが一つもう売れなかった話を聞いて、悲しかったか、うれしかったか。 ④ばあさまはどんな人だと思うか。(〇〇な人) (読・書) 	よみとる
よみとる	<ul style="list-style-type: none"> ・P34~35の写真を見て旅の状況を想像する。 ・P35~36の熊たちの思っていることをノートに書く。(読・書) ・一つだけでなく、できるだけたくさん書くようにさせる。 ・書けないことが予想されるようであれば、あらかじめノートに枠組みを作るなどして書きやすい状況を作っておく。(関) 		<ul style="list-style-type: none"> ・課題の確認 それぞれ答えの根拠となっていることを尋ねる。根拠が曖昧な場合は、簡単に説明する。 ・教師がばあさまの心情とは逆の読み方をしてどこが違うかを気づかせる。(読) ・教師がじいさま、児童がばあさまの会話を交互に読み進める。(読みの評価をする) 	たしかめる
たしかめる	<ul style="list-style-type: none"> ・書いた内容を、母ー子ー雄の順でそれぞれ発表させる。 ・一つずつ写真や文章と比べて妥当かを尋ね、違うものは赤鉛筆でレ点を入れてチェックさせる。 ・雄熊と母熊になってそれぞれ書いた内容を読み合う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ばあさまの会話をノートに視写する。 	まとめ
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・4. 5の場面を音読 (個人ーリー) 		<ul style="list-style-type: none"> ・5の場面の音読練習をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 様子を思い浮かべながら、工夫して音読しよう。 </div>	つかむ

7. 本時の評価

- 1年生 4. 5の場面 (P. 34・35) を読み、白くまの兄弟に対する母ぐまの気持ちを、文や写真を手がかりに読み取る事ができたか。
- 2年生 4の場面を読み、じいさまを迎えるばあさまの様子やもちつきのまねごとをする二人の様子を読み取り、音読を工夫することができたか。